

# 2018年 ICG (International Commission on Glass) 年会の開催に向けて

東京大学生産技術研究所

井上 博之

## Hosting of the ICG (International Commission on Glass) annual conference 2018

**Hiroyuki Inoue**

*Institute of Industrial Science, The University of Tokyo*

2015年の巻頭言で紹介させていただきました2018年のICGの年会を横浜で開催することが9月のBangkokで決定しました。1974年の大会(京都), 1991年の年会(東京), 2004年の大会(京都)に続いて日本で4回目のICGの会議の開催となります。今回, Bangkokに日本から多くの参加者を得たことを招致委員のひとりとして心から感謝致します。

1991年の年会は, 横尾俊信「International Conference on Science & Technology of New Glass (ICNG)の概要」, *New Glass*, Vol. 7, No. 1 (1992) 74, 2004年の大会は, *New Glass*, Vol. 19, No. 3 (2004)の特集II第20回国際ガラス会議に開催報告が掲載されている。

今後のこともあるので, これまでの経緯を少しだけ紹介します。ICGの会議の開催の手順などの継承を考えると, 10年ほどの間隔で会議を開催することが望ましいとのことから, 2012年にICGの年会の招致活動を行うことを決定し, 開催地は東日本としました。2013年の初頭から準備のためのワーキンググループを組織

して, 月に1度程度の会合を持ち, 開催場所, 予算, 趣旨などを検討し, 申請書および招致のためのプレゼンテーションの原案を作成し, 2013年11月と2014年3月に拡大招致委員会で議論し, 最終的な申請書(2015年7月末締め切り, A4で10頁), プレゼンテーション(2015年年会の時のCouncil meeting, 質疑を含めて15分)の準備を行いました。開催地の決定は, 2つ前の会議のときのCouncil meetingでプレゼンテーションの後に, 投票で決定します。2012年のMaastrichtの年会では, タイ, インド, 韓国の中から2015年の年会がタイ(Bangkok)に決定し, 2013年のPragueの大会では, 2010年に落選した米国だけの立候補で, 無投票で2019年の開催がBostonに決定しました。2014年のParmaの年会では, トルコとインドの中から2017年の年会がトルコ(Istanbul)に決定しています。したがって, 2015年Bangkok, 2016年Shanghai, 2017年Istanbulと3年続けて欧州外での開催であり, 2018年を日本に招致することは極めて難しい状況でした。日本の他に, フランス, ポーランドと欧州から2カ国の立候補が幸いして開催を獲得することができました。

横浜の年会は, 2018年9月24日(月)から

27日（木）までPACIFICO YOKOHAMAで開催します。この会の開催に向けて、招致の準備以上にすべきことが沢山あり、多くの方の労力を必要とすることと思います。この準備の作業を通して、ICGが、また、世界のガラスが、

我々に近い存在となり、さらに日本のこの分野の発展に繋がることを期待します。この機会に、ICGの活動にご理解をいただき、そのTechnical Committeeなどの活動を積極的に利用されることを希望します。